

青くて、笑顔で、暖かくて。

玉城 曹

青い海。きらきらと光っていて人で賑わっている。

花々は咲き誇り、綺麗な色彩で溢れている。子供たちの遊んでいる姿や声が聞こえる。大人たちは忙しく働いている。

私は、今充実した生活をおくっている。楽しいことができる。

おいしいものを食べられる。

好きな曲が聞ける。

友達と遊べる。

家族と過ごす時間がある。

でも、私の知らないところで今も戦争している場所がある。こし沖繩も75年前は、戦争中だ。

青い海は黒く、赤く染まってしまった。たのびろつか。

鮮やかな花たちは焼け落ちてしまった。たのびろつか。

子供たちの姿は、隠れ怯えているのだろう
か。

大人たちは、我が子を守る為に必死だ、
たのぞうか。

見たこともない鉛のような物が雨のように
降る。愛し、愛された母が我が子に手をかり
る。戦争は、たくさんのお血が流れ、命を失な
って、悲しみが募っていく。小学校でたくさ
ん考え、学習してきた平和、戦争について。
悲しい、なんて薄い言葉じゃ表しちゃいけない

い。学習していく内に感じた最初の考え。幸
せを奪っていくことだけしかできなかった。戦
争への恐怖。体験はできないし、したくない。
しかし、体験した人のその目に映る光景を
想像できる。私が一番恐ろしくて、心に残っ
ている話は、六年生のときに修学旅行で読ん
だ体験者の話。その方は当時ひめゆり学徒隊
で、毎日毎日重傷の人たちをこばれてくる。
中には怪我のひどい人は、足を切断したりし
なくてはいられない人もいる。ただ、この時代

にそんなになくさんの麻酔がある訳も無く、
麻酔をせずに手術をする。だから叫び声があ
さまじいらしいし、ちやんと切断できたとし
ても、きちんとした手当てができずに、その
傷からうじがわき、最終的には亡くなってし
まうらしい。私はこの話を読んでいるときに、
鳥肌がたち、寒気がした。そしてじがざわざ
わした。

そんなことをくり返さない為に、平和とい
う充実した世界を私達の子供、孫、子孫にみ
せる為に私達に何ができるだろうか。具体的
にはよく分からない。しかし、体験者の方々
が少なくなっている今、私達が聞いた話を後
世の人々にしっかりと伝えること、人間がした
最高で最悪な失敗である戦争は、怖いことを
伝えることが大事なんだと知った。

そして、最近では新型コロナウイルスのせいで
世界中の多くの人々が悩み、苦しんでいる。
でも、そんなコロナのおかげで世界中の戦争
がとまり、地球がきれいになっていると私は

聞いた。しかし、これですぐに世界中が「ハイ、これから、平和に生きましょつ」というふうには、ならないかもしれない。といのかばらないと私は思う。でも私は、1日でも早く、戦争がとまり、この地球に住んでいる1人1人が手をとって協力して生きられる。世界が平和という明るい光につつまれるその日が、1日でも早くおとずれてほしいと私は思う。